

8.10 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

12:40 遠野駅着
13:00 引継ぎ開始
16:30 夕食準備開始
19:00 夕食
20:20 ミーティング
22:30 スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の友人が津波の被害にあった。
 - 自分の親が震災当日に仙台にいた。
- 何か行動に移したい。
 - 義捐金などの間接的な支援ではなく、自ら現地を訪れ直接的な支援がしたい。
 - とにかく、人の役に立つことがしたい。
- 自分の目で見たい。自分の耳で被災者の方々の声を聞きたい。
 - それを、自分の将来に役立てたい。
- ボランティアの参加期間
 - 短期的な参加ではつかめるものが少ない。長期的な参加であれば、何かより強い手ごたえが得られるのかもしれない。
 - 我々第5陣は、第1陣から第4陣までの活動を引き継ぎつつ、新たなものを創出し、第6陣へしっかりと引継ぎを行うことが重要なミッションである。
- ボランティアをやる人の身分などはボランティアを受ける人にとっては関係ない。ひとりひとり責任を持って行動する必要がある。

8.11 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 食事班起床

6:00 朝食準備開始

7:00 朝食

8:15 出発

① グループ(視察組)

9:30～10:10 陸前高田視察

10:30～11:50 大船渡市視察

12:45～13:15 昼食

13:30～15:30 長洞仮設住宅にてベンチ作り

16:50～17:20 買い物

② グループ(地の森仮設住宅組)

11:00～12:10 仮設住宅で実施されるお祭りのチラシを近隣に 300 部配布

12:45～13:15 昼食

13:30～15:30 長洞仮設住宅にてベンチ作り

16:50～17:20 買い物

③ グループ(学習支援組)

13:00～16:00 大船渡中学校にて学習指導(生徒:男子1名、女子2名 計3名)

17:30 夕食準備開始

19:10 夕食

20:30～22:00 ミーティング開始

22:00～22:40 スタッフミーティング

1. 1日の活動

- 陸前高田と大船渡視察(9人)

- 地ノ森仮設住宅でのお祭り準備(6人)

→物資をどう配置するかや、駐車場の確保など自治会との調整。

→周辺住民へのチラシ配布。計 300 枚。

→ポスターの貼り方を調整＝見映えを良くした。

- 学習指導(2人)

場所:大船渡中学校

対象:中学3年

指導方法：個別指導の形

活動時間：午後1～4時

生徒：3名

総生徒数（中学3年）：120前後

教科数：5教科

● ベンチ作り（13人）

場所：長洞仮設住宅（総合運動公園）

活動時間：13時～15時30分

活動内容：ペンキ塗り、仮設住宅への配置

● 明日の予定

学童保育（5人）、地ノ森仮設住宅でベンチ作り（10人）

8.12 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 朝食班起床

6:00 朝食準備開始

7:10 朝食

8:15 出発

① ベンチ作り班 (14人)

9:30 ベンチ作り

10:00 世界遺産、平泉の建築に携わっている人の公演を聞く。

12:00 昼食

13:40 ベンチ作り再開 (計6個、色5個)

15:30 修了

② 猪川キッズクラブ (2人)

9:20 夏休みの宿題

9:50 プール遊び、室内遊び

12:00 昼食

12:25 室内にて自由時間

13:30 動物探しゲーム

14:00 プール遊び、室内遊び

15:30 出発

③ 浜っこクラブ (3人)

9:25 到着

9:30~10:00 勉強

10:00~10:30 動物ゲーム カレー作り

10:30~12:00 水鉄砲、室内遊び

12:00 昼食

12:30~14:00 自由時間

14:00~15:00 かくれんぼ 室内遊び

15:00 おやつ

15:20 出発

16:20 地の森発
16:50~17:20 買い物
18:00 帰宅
18:10 夕食準備開始
19:00 夕食
20:15~22:30 ミーティング

1. 1日の活動

ベンチ作り班

場所：地ノ森仮設住宅

作成数：6個

ペンキ塗り：5個

学童保育

場所：きっずくらぶ猪川

生徒数：18人

活動：プール遊び、動物シール探しゲーム

場所：にこにこ浜っ子クラブ

活動：勉強のお手伝い、動物シール探しゲーム、自転車遊び、屋内遊び

2. 意見・感想

① ベンチ作り班

● 課題

- 現地の人との交流（ベンチ作りを手伝ってくれた子どもたちと遊ぶことなど）も重要だが、自分たちのやるべきこと（ベンチ作り）との両立をうまくできるようにする。

② 学童班

● 事例

- 子どもが震災の遺体安置所の話を突然しだして非常に戸惑った。
- ある子どもが、大漁旗を作成していた。旗には「がんばろう、大船渡。大漁」と書かれていた。その子どもは、帰宅後、船を流されてしまった漁師のおじいさんに旗をプレゼントするそうだ。

● 課題

- 子どもが震災のことについて話すとき、どのように対応すべきかわからない。→数人が意見を発表した。（①相槌を打ち、じっくり聞く、②いきなり話を切らない、しっかりと最後まで理由を明確に述べ、話を終わらせる。など）

8.12 大船渡ボランティア報告

3. 1日の流れ

5:30 朝食班起床

6:00 朝食準備開始

7:10 朝食

8:15 出発

④ ベンチ作り班 (14人)

9:30 ベンチ作り

10:00 世界遺産、平泉の建築に携わっている人の公演を聞く。

12:00 昼食

13:40 ベンチ作り再開 (計6個、色5個)

15:30 修了

⑤ 猪川キッズクラブ (2人)

9:20 夏休みの宿題

9:50 プール遊び、室内遊び

12:00 昼食

12:25 室内にて自由時間

13:30 動物探しゲーム

14:00 プール遊び、室内遊び

15:30 出発

⑥ 浜っこクラブ (3人)

9:25 到着

9:30~10:00 勉強

10:00~10:30 動物ゲーム カレー作り

10:30~12:00 水鉄砲、室内遊び

12:00 昼食

12:30~14:00 自由時間

14:00~15:00 かくれんぼ 室内遊び

15:00 おやつ

15:20 出発

16:20 地の森発
16:50~17:20 買い物
18:00 帰宅
18:10 夕食準備開始
19:00 夕食
20:15~22:30 ミーティング

2. 1日の活動

ベンチ作り班

場所：地ノ森仮設住宅

作成数：6個

ペンキ塗り：5個

学童保育

場所：きつずくらぶ猪川

生徒数：18人

活動：プール遊び、動物シール探しゲーム

場所：にこにこ浜っ子クラブ

活動：勉強のお手伝い、動物シール探しゲーム、自転車遊び、屋内遊び

4. 意見・感想

③ ベンチ作り班

- 課題

- 現地の人との交流（ベンチ作りを手伝ってくれた子どもたちと遊ぶことなど）も重要だが、自分たちのやるべきこと（ベンチ作り）との両立をうまくできるようにする。

④ 学童班

- 事例

- 子どもが震災の遺体安置所の話を突然しだして非常に戸惑った。
- ある子どもが、大漁旗を作成していた。旗には「がんばろう、大船渡。大漁」と書かれていた。その子どもは、帰宅後、船を流されてしまった漁師のおじいさんに旗をプレゼントするそうだ。

- 課題

- 子どもが震災のことについて話すとき、どのように対応すべきかわからない。→数人が意見を発表した。（①相槌を打ち、じっくり聞く、②いきなり話を切らない、しっかりと最後まで理由を明確に述べ、話を終わらせる。など）

8.14 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

6:30 食事準備

8:00 食事

9:45 教会組み出発

10:30 出発

12:00 お昼

13:00 MT

13:30 お祭り設営。食事準備。イベント準備。

15:30~19:30 お祭り

19:30~21:30 片付け

21:30~22:30 帰宅

23:00 夕食

2. 活動報告

- 越喜来山村広場でお祭り開催
→自治会、ChildFund Japan、青山学院、ICUの方と協力
- お祭りでのブースの手伝い
- 盆踊り
- ビンゴ大会
- ベンチ作り

8.15 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

- 7:00 食事準備開始
- 8:30 朝食
- 9:45 出発
- 10:45 到着
- 10:45~12:10 長洞掃除・掃除
- 12:10~13:00 昼食
- 13:15~14:10 越喜来掃除
- 14:10 出発
- 15:00~15:30 買い物
- 16:00 帰宅
- 19:00 夕食
- 20:15 MT 開始
- 22:00 終了
- 22:45 スタッフミーティング

2. 1日の活動

- 地ノ森仮設住宅、長洞仮設住宅、越喜来山村広場でお祭り後の清掃を行った、

1. この2.3日での活動

- 地ノ森仮設住宅でお祭り開催
お祭りの目的：仮設の棟を越えたコミュニティーの形成。近隣住民との交流を図る。
- 越喜来山村広場でお祭り開催
お祭りの目的：震災以来、顔合わせをしていなかったそれぞれの部落が集まる機会を提供し、これからの全体コミュニティーの形成を促進する。
 - 運営面

13日のお祭りでの運営上の反省点を14日のお祭りで生かすことができた

- 14日には、ゴミの分別をわかりやすくしっかりとできるようになった。
- 14日のように、チケット制のほうが運営しやすかった

Q、仮設住宅の人々にとって、盆踊りとは？

- 地元の伝統で、あたたかさの象徴
 - とても身近で大事なもの
 - 地元のつながりを思い出させてくれるもの
 - 彼らが熱心に盆踊りを踊っていたのは、自分たちの力で自分たちの街を復興させたいという強い思いからなのだろうか。
- 「もらいなれ」について。どこまで、ボランティアが必要か？
 - 「あまり自分たちを甘やかさないでくれ」という声もあった。あまりにもボランティアなどが支援をしすぎると、彼らの自立を妨げることになるのではないだろうか。
 - やってあげるとか物を与えとかいう段階は終わっているのではないか？→これからは自分のことを自分でできるようにするということを定着させることが重要なのでは。
 - もらい慣れしているということに気づいていない住民がいるかも？→気づかせてくれる存在が必要。
 - もらいなれのそもそもの原因は、ボランティアやいろいろな団体による過剰な支援物資の提供である。
 - ボランティアにおいて大切なことは、現地の人の事情を最優先に考えることであって、押し付けをしてまで物資を届けることは好ましくない。
 - 我々が最終的に目指すべきところは、ボランティアが被災者に一方的に支援する関係ではなく、被災者同士が支えあうコミュニティーを形成することである。
 - 被災者の中にはさまざまな立場の人がいる。「もう支援はやめてほしい」と考える人もいれば、「まだ支援を続けてほしい」という人もいる。この点で、ボランティア活動の線引きが非常に難しい。

- 被災者同士で、自分の生活に少し余裕が出てきた人は、できる限りまだ支援が必要な人のサポートをしていくことができればよいのではないだろうか。
- あくまで誰かが誰かを一方的に「助ける」のではなく、「助け合う」ことを目指すべきである。
- 主観的な意見（自分が満足するボランティア）だけではなく、客観的な意見（ボランティアされる側がどう思うか？）が必要である。

明日の予定

午前中：拠点の整理、午後：長洞仮設住宅でベンチ作り、夕方：越喜来でお祭り参加

8.16 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

8:15 朝ごはん
9:30 掃除
11:30 お昼
12:30 出発
14:00 作業開始
17:00 作業終了
18:00 お祭りに参加
21:00 お祭り終了
22:00 帰宅

2. 活動報告

ベンチ班

ベンチ作成（6個完成、色塗り途中）

3. 明日の活動報告

7:30 朝ごはん
8:30 学童組 出発
8:30 MT開始
10:30 掃除開始
12:00 お昼
14:00 引継ぎ開始
21:59 バス

8.17 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

12:40	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
16:30~18:30	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
- なぜ今の時期なのか
 - 震災直後は、自分のやるべきことがあったり自分自身の準備が整ってなかったから。
- なにがしたいのか？
 - 去年、大船渡を訪れた経験があり、震災後の現状を自分の目で確かめたかったから。
 - 人の役に立ちたい。
- 学術支援について
 - いい勉強につなげる手伝いをする
 - 心のつながりを意識したメンタルケア
 - 女の子には女の子、男の子には男の子のサポーター
 - 活動意義をスタッフ間で統一させておくことが大事！！